● 読書感想文コンクール 小学校 1･2･3 学年 の部●

市長賞

庄田　亜紀（しょうだ　あき）　第五小 ２年生

作品名：「私はレモネードやさん」を読んで

図　書：読む知る話すほんとうにあったお話2年生　わたしはレモネードやさん

このお話は、がんでわずか八才でいきをひきとったアレックスという女の子の実話です。アレックスは一才になる前にがんが見つかりました。強いくすりのふく作用で、はき気やいたみにくるしんだり、ねつが出たり、かみの毛もすっかりぬけてしまい、だるくて思うようにあそぶこともできません。そんなくるしい中、同じびょう気のお友だちがなくなってしまいます。がんがなおるくすりはいつできるんだろうと、くやしくてかなしくてたまらない気もちを、レモネードスタンドをひらいて売ったお金をびょういんにおくって、がんをやっつけるくすりを作ってもらおうとしました。

私は今、アレックスがなくなった年と同じ八才です。そして、この夏休みに手じゅつをうけるために一週間入いんしました。びょういんには、びょう気でもう二年も入いんしている子や赤ちゃんで手じゅつをうけている子、すきな物も自由に食べられなかったり、小さな体でくすりがいやだとないてしまう子もいました。ようち園のころは、世の中の子どもはみんな元気なんだと思っていたけれど、入いんすると赤ちゃんもいるし、子どもも大人と同じようにびょう気でくるしんでいる子がたくさんいるということを感じます。私は入いんは三回目でしたが、外に出かけたり走ったり、すきな食べ物が食べられることとか、ふだんふつうにしていることが本当はしあわせなことなんだと思うようになりました。

だからアレックスが生きていたら、こう手紙を書きたいです。

アレックス、同じびょう気のお友だちがなくなった時のことを思うと、とてもかなしい気もちになりました。もし私がアレックスだったら、ないてないて、なみだがなくなってしまうと思います。その気もちをレモネードを売って、がんのちりょうにやくだてようと思ったのが本当にすごい事だと思いました。レモネードは私も大すきです。おいしいし元気が出るから、とてもいいアイデアだったと思います。一つの事は小さくても、あつまるとすごく大きな力になるんだということを知りま

した。みじかいいのちだったけど、きぼうを持って明るく一生けんめい生きたアレックスは、家ぞくやみんなの心の中にこれからもずっと生きつづけていくと思います。